

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
環境技術委員長 坂本 忠彦
両団体専務理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第351回)

日時 平成30年10月23日(火) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、CO2から合成樹脂技術

解説 野崎京子東京大学大学院教授

3、『環境技術関連ニュース NO.173』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る9月20日開催の第350回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。今回の「環境技術関連ニュース」には、今年が世界的猛暑であったことをうかがわせる記事が多数掲載されている。しかも、その傾向は来年以降も続くみこみで、温室効果ガスとの深い関連性も指摘されている。今回の議題は海洋プラスチック問題についてであるが、欧州ではプラスチック製ストローの使用禁止が話題になっている。だがストローは小さなもので、ビニール袋などほかに注目すべきものがあるのではないか。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.172』の解説がありました。今回は、○世界各地で異常猛暑。熱波による死者、森林火災、川の氾濫、土砂災害、水不足による農作物への影響などが出ている。その原因は、亜熱帯の偏西風の蛇行によるもので、熱い空気と涼しい空気の境目が例年より北側にあるからだ。台風12号の進路が異常だったのもその影響。○昨年の中国のプラスチックごみ輸入禁止によって、海洋漂流は増加するのでは、という分析。○生分解性プラスチックの開発。海底で分解する工夫や微生物につくらせるプラスチックなど。○韓国企業が建設したラオスのダム決壊関連の話題。○クロロフィルで重油を分解する技術。○国交省が西日本豪雨を踏まえ治水計画を見直す。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次に、清原淳平専務理事より、中里靖環境省海洋環境室長の経歴紹介がありました。次に、中里室長より、「海洋プラスチックを取り巻く国内外の動向」について解説がありました。近年、海洋中のマイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響が懸念されている。近年は元々大きなサイズで製造されたプラスチックが自然環境下では破砕されたものがほとんどである。吸着するPCBは人体には無害だが、海亀や鯨などの生物に影響を与える可能性がある。(詳細な研究結果はまだ出ていない) 巷間、中国や韓国のごみが大量に日本の海岸に漂着しているといわれているが、調べてみるとその影響は九州では確かに中韓のごみが多いが、東日本や瀬戸内あたりでは日本国内由来の漂着ごみも多い。また、北海道あたりでは国籍不明のごみがほとんどである。海洋ごみ問題は、G7やG20でも取り上げられ、中国とは高レベルでの海洋廃棄物対策が進められている。日本国内でも、本年海洋漂着物処理推進法の改正、第4次循環型社会形成推進基本計画の閣議決定、海岸漂着物等地域対策推進事業に30億円の予算を立て、地方自治体に補助金を交付するなどの施策を行っている。海岸漂着物の多くは、国民生活に伴って発生したものであり、リサイクルの推進によって発生を抑制するのが一番の対策である。事業者も、海域流出を抑制するよう努めなければならない。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、10月23日(火)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp